



第44回STORMジャパンオープン

11月3～6日 / 稲沢グランドボウル

初V 松浦 和彦 6年目 幸木百合菜 2年目



▲「たくさんのおかげ」でたどり着いた初優勝に、感極まる松浦



▲「第2シードには何とか入りたいというぐらいで、2年目に優勝できるとは思っていなかった」と幸木

第44回ジャパンオープンボウリングトーナメントは、男子793名(アマ565名)、女子395名(アマ248名)が参加して、1フロア116レーンの稲沢グランドボウル(愛知県稲沢市)を会場に熱戦を展開したが、男子は27歳の松浦和彦(56期・株LTB)、女子は20歳の幸木百合菜(53期・アイビーボウル向島)が、それぞれ初タイトルを獲得した。(主催:(公社)日本プロボウリング協会 特別協賛:株ハイ・スポーツ社)



▲⑦のピンを飛ばすのに手を焼いた大嶋だが、「ミスをして負けたわけではないので、そこは自信にしたい」



▲MKや東海はレーンが合っていたけど今回は悪いイメージしかなかった。なかでも3位に入つた近藤選手

男子で決勝進出は8名中7名が左利き

男子マスターズのダブルエリミネーションに残ったのは、8名中7名がレフティー。唯一右投げの松浦和彦は「普通に考えるとセオリーから外れているかもしれないけど、あえて高慣性のいちばんオイルに弱いボールをチョイスしたのがはまった感じ」と、他の右投げが苦戦するなか、5位で進出した。

2Gマッチのダブルエリミネーションでも、1回戦で斉藤征哉を470:446、2回戦で小原照之を509:471で退けると、3回戦は1、2G目とも279の558を打って、423の江川司を圧倒、優勝決定戦進出を決めた。

TV決勝となる3位決定戦からは1Gマッチとなるが、3位決定戦は、3回戦で松浦に敗れた江川と、敗者ゾーンの2、3回戦を勝ち上がってきた小原の対戦、ターキースタートの小原が、4フレのスペアをばさんで5フレから6連発で268:199と快勝した。江川は「練習ボールですとストライクが出ていて、ちょっと嫌な予感がしたけ

ど、それが的中した感じですよ」と振り返った。

優勝決定戦は、前半ともにスプリットでオープンを作るなど苦労していたが、「5フレぐらいで、自分がビビっているな、レーンが全然見えていないというのに気づいて、このゲームは落としてもいいから純粋に10本倒すことに集中しようと思った」と松浦。左レーンを一気に5枚中に寄ったのも奏功して、6フレからのターキーで並びかけると、10フレ勝負の1投目、小原がバケットを残したのに対し、パンチアウトを決めて悲願の初タイトルのゴールに飛び込んだ。

松浦のコメント

ダブルエリミネーションに残ったのが右で一人だけだったのにはびっくりしたし、心細かった。左の人からは、有利じゃないかって言われたけど、右の感覚だと、削れて遅くなるほど自分は楽になる。だからどちらに出るかわからなかったの、そこは考えないようにした。少しずつ階段を上ってきての優勝だったので、ついにそのときがきたなと思った。自分は人との出会いに恵まれてきた。例えば

スマイルフィールドの岡部(直治)プロ、座間(美子)プロがいなかったらこの優勝はなかった。また散々迷惑をかけてきた両親にも、勝ったよって報告したい。

優勝ボール: 900GLOBAL(ABS)ブラッディ・バジャー

プロが意地を見せアマの連覇を阻止

昨年はアマ同士の優勝決定戦となった女子は、予選からトップを快走した霜出佳奈が14Gトータル3407(Avg243.35)で1位通過、準決勝で1467を打った松永裕美が2位で進出した一方、昨年準優勝の近藤菜帆選手ら、今年もアマが3名残っていた。

ダブルエリミネーション1回戦では、霜出が8位通過の大嶋有香に431:462で敗れば、松永も7位通過の幸木百合菜に490:498と競り負け敗者ゾーンに回った。勝者ゾーン3回戦は幸木が大嶋に504:367と快勝して優勝決定戦に進んだ。

敗者復活2、3回戦を勝ち上がってきた近藤選手と大嶋の3

位決定戦は、1フレからストライクの応酬となった。近藤選手が5フレで切れたのに対し、大嶋は7フレまで伸ばし、257:227とプロの意地を見せた。敗れた近藤選手は「今回は内容がよくなかったし、ここまで残れたのが信じられない。でも諦めなくてよかった。(MKチャリティの総合優勝を含む)4大会連続のベストアマは自分にとっての宝物です」

サウスポー対決となった優勝決定戦は、ともにターキースタート。幸木がさらに6フレまで伸ばしたのに対し、大嶋は「男子がウレタンボールを使っていたこともあって、セオリーどおりの合わせ方ではうまくいかなかった」と、4フレからは⑦ピンタップの嵐。幸木が8フレ、ビッグフォーでワンチャンスあったが、10フレのパンチアウトも224:233と9ピン及ばなかった。幸木はデビュー2年目で嬉しい初タイトルとなった。

幸木のコメント

会場の稲沢グランドボウルさんの相性もすごくいいし、自分の得意な外のラインで、予選から立ち位置もほとんど変えずに、ずっと同じところを投げられたのが、いちばんの勝因。それにしても今の実力からすれば、8人に残れただけでもラッキーなのに、優勝は夢のよう。優勝決定戦は、1回負けても再決定戦の権利があったけど、5発ぐらいきた時点で、この展開で負けるのは嫌だったので、1回で決めたいと思った。中島瑞葵ちゃんをはじめ、同期の活躍がすごくて、焦りもあったけど、ずっと刺激をもらっていました。

優勝ボール: BW(サンブリッジ)メーリー・ジャブ・カーボン



▲男子ベストアマは総合4位の吉田大祐選手

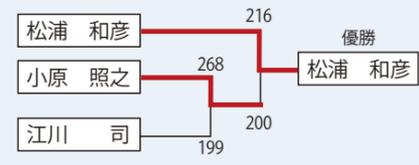


▲「ちゃんと投げられての2位なので、自分的には悔いはない」と小原

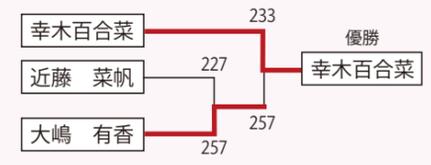


▲「手前を飛ばして先の動きを出す作戦がうまくはまってくれた」と納得の3位の江川

●男子3位決定戦・優勝決定戦



●女子3位決定戦・優勝決定戦



●優勝決定戦



●優勝決定戦

